

# まちの通信簿

～ひと咲き まち咲き あまがさき～

## 総合的なまちづくり

このまちに「住んでみたい」「住み続けたい」と市内外の人に選んでもらえるよう、総合計画に掲げる4つの「ありたいまち」の実現をめざし、課題解決に向けた取組を推進するとともに、それらを戦略的・効果的に発信し、市民のまちに対する「誇り」や「愛着」を醸成していきます。そういったまちづくりの進捗を測る指標として、「あまがさきで子どもを育てる人」の増加と「まちのことを想い、活動する人」の増加をめざします。

### あまがさきで子どもを育てる人を増やす

ファミリー世帯の転出超過傾向は、本市の最重要課題の1つです。その原因である教育や治安・マナーの向上などに取り組み、まずはその超過世帯数の半減をめざします。

#### ■ファミリー世帯の転出超過数

方向性	基準値 (2014年)	2015年	2016年	現在値 (2017年)	2018年	2019年	目標値 (2019年)
↑	382世帯	406世帯	311世帯	272世帯	※※	※※	191世帯

5歳未満の子どもがいる世帯の転出超過が本市の課題です。そのため、この指標における「ファミリー世帯」は「5歳未満の子どもがいる世帯」としています。

### まちのことを想い、活動する人を増やす

今後のまちづくりには、自分もまちの一員としてまちづくりに参画する人、また、その活動を伝える人、その活動に感謝する人を増やすことが重要です。まちに「誇り」と「愛着」を感じ、「まちのことを想い、活動する人」がふれるまちをめざします。

#### ■市民参画指数

方向性	現在値 (2017年度)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値 (2022年度)
↑	39.0	※※	※※	※※	※※	※※	50.6

「尼崎の魅力を誰かに勧めたい」「地域活動に参加したい」「地域の支え手へ感謝したい」という想いをお伺いし、その結果を総合的に数値化したものです。

## 4つの「ありたいまち」に向けた主要取組項目

観点	説明	方向性	基準値 (2016年度)	現在値 (2017年度)	2018年度	目標値 (2022年度)
<b>① 人の育ちと活動を支援する ～「人が育ち、互いに支えあうまち」に向けて～</b>						
子どもたちの学力を伸ばしたい	家庭学習の習慣化などに取り組み、全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国との比較において、あまがさきの子どもが全国平均を超えることをめざします。	↑	(小6) △1～△3 (中3) 0～△4	(小6) △3 (中3) △1～△2	※※	全国平均以上
地域活動を活発にしたい	市民等の主体的な学習や活動を支援することで市民等がさまざまな地域の活動に参加し、身近な地域の魅力を高めていくこと(市民意識調査で「地域活動に参加している」と回答する割合)をめざします。	↑	24.1%	19.9%	※※	30.0%
<b>② 市民の健康と就労を支援する ～「健康、安全・安心を実感できるまち」に向けて～</b>						
健康寿命を延ばしたい	生活習慣病予防などに取り組み、市民が自立して日常生活を送れる期間(健康寿命)の延伸をめざし、平均寿命を上回る健康寿命の増加をめざします。 【平均寿命(2015⇒2016) 男性79.35歳 ⇒ 80.00歳 女性86.15歳 ⇒ 86.57歳】 【健康寿命(2015⇒2016) 男性77.68歳 ⇒ 78.29歳 女性82.68歳 ⇒ 83.04歳】	↑	男性 1.66歳 女性 3.47歳 (2015年)	男性 1.70歳 女性 3.52歳 (2016年)	※※	数値は健康寿命と平均寿命の差
「生きがい」を持って暮らす高齢者を増やしたい	介護予防などの取組により、身体の健康維持に加え、「生きがい」を持ち社会とのかかわりを持って生活する高齢者(市民意識調査で「生きがいを感じる」と回答する割合)を増やします。	↑	64.0%	59.2%	※※	75.9%
<b>③ 産業活力とまちの魅力を高める ～「地域の資源を活かし、活力がうまれるまち」に向けて～</b>						
まちを訪れる人を増やしたい	尼崎城再建を契機にした、地域一体となった「観光地域づくり」の取組により、イベントや観光等でまちを訪れる人を増やします。	↑	240.3万人	227.6万人	※※	280万人
まちのイメージを良くしたい	戦略的にまちの魅力を発信し、都市のイメージ向上(市民意識調査で「尼崎市のイメージが良くなった」と回答する割合)を増やします。	↑	42.6%	34.8%	※※	66.0%
<b>④ まちの持続可能性を高める ～「次の世代に、よりよい明日をつないでいくまち」に向けて～</b>						
二酸化炭素排出量を減らしたい	公共交通機関の積極利用やごみの削減など、誰もが実施できる取組の推進により、市内の二酸化炭素の排出量(民生家庭・業務部門)を減らします。	↑	1,114千t (2015年度)	1,199千t (2016年度)	※※	746千t (2020年度)
快適に暮らせるまちにしたい	安心して暮らせる住環境の確保に取り組み、暮らしやすいと実感している人(市民意識調査で「現在の住環境が暮らしやすい」と回答する割合)を増やします。	↑	83.5%	79.6%	※※	90.0%

## 財政状況

観点	説明	方向性	基準値 (2016年度)	現在値 (2017年度)	2018年度	目標値 (2022年度)
<b>持続可能な行財政基盤の確立</b>						
収支を黒字にできている	市の貯金である基金を取り崩さことなく毎年度収支均衡を確保できるよう、更なる構造改善に取り組みます。	↘	△24.3億円	△2.0億円	※※	収支均衡
借金を減らせている	必要な未来への投資と将来の負担のバランスを取りながら、着実に将来負担の抑制を進めます。	↘	1,590億円	1,492億円	※※	1,100億円以下